

同和問題市民講演会を開催しました

●問合せ先 人権同和教育課 ☎72・2111



講演会終了後、橋本大二郎さん、組坂繁之さん（部落解放同盟中央本部執行委員長）、加地市長による対談が行われました。

7月13日、前高知県知事の橋本大二郎さんによる同和問題市民講演会「自らの体験から考える人権問題」を開催しました。同和問題を始め、障がい者や外国人などの幅広い人権問題について「差別や偏見を受けている側の実際の姿を正しく知り、相手の立場に立つて考えることが大事。社会問題全般を人権の視点から捉えよう」と呼びかけました。

また、教科書無償化や高校奨学金制度導入などの解放運動の成果について触れ、「子どもの貧困問題への大きな道標にもなっている。人権問題の解決には、解放運動が培ってきた志が果たす役割は大きく、次の世代に受け継がれ生かされていくだろう」と話しました。

市長 今日には本当にありがとうございました。人権を横軸に通すことであらゆる問題が見えてくるお話をいただきました。外国人や高齢者の人権、子どもの貧困など、社会が抱えきれない問題が出てきて、きちんと見ていかないと問題が拡大するばかりという感じがします。組坂委員長はこうした広がる人権問題について、どのようにお考えですか。

組坂さん 橋本先生が話されたとおり、いろいろな個別の人権問題がありますが、人権という視点をベースに物事を考えていくということが大事ではないでしょうか。最終的には人権侵害を救済する法律や人権委員会をつくって、人権救済をしていくというシステムができることが大事だと思います。

市長 小郡市は「人権のまちづくり」に取り組んでいます。人権をどう捉えてまちづくりを生かしたら良いか、アドバイスをお願いします。

橋本さん すべてのことを人権問題で捉えることが必要な時代なので、行政や企業、自治会などがあるんなことに取り組む場をつくり、またそれを引っ張っていくリーダーを育てて、それから具体的な取組を進めていくことだと思います。

市長 現在インターネットの中で、正しく検証されていないような情報があふれ、そこから差別などの問題が生まれて、拡散されやすい状況にもなっています。

橋本さん ネット上の間違った情報には、歯止めをかけていくことが大事で、きちんと「NO」という意思を表明していくことが大切だと思います。

市長 最後に市民の皆さんにメッセージをお願いします。

組坂さん 世の中の間違ったしくみを正していくためには、連帯して部落差別を始めとするあらゆる差別をなくしていくことが大切です。あと3年で全国水平社創立100年を迎えますが、そのときにはさまざまな差別が無くなっている日本・世界となるように努力したいと思います。



橋本さん 部落解放運動というのは、人権を考える糸口、突破口だと思います。今日の市民講演会などへの参加を機会に、もう一度考え、学習し直してみることが、同和問題だけではなく、身近にはいろいろな人権問題があることに気付くきっかけになると思います。